

pro

Proceedings 議事録



- 日時 : 平成27年11月27日（金） 9:30～11:30
場所 : 新潟市役所白山浦庁舎 7号棟 白7-405会議室
- 出席者 委員 : 中村 恵子（新潟青陵大学 教授）
福島 實（新潟市子ども会連絡協議会 会長）
近藤 淳一（新潟国際友好会館 館長）
齊藤 裕子（新潟市教育委員会学校支援課 副参事）
長浜 裕子（新潟市教育委員会 教育次長）

丹治 嘉彦（新潟大学教育学部芸術環境講座 教授）
逸見 寛（(株)けんとう放送 取締役 放送局長）
池主 透子（TC-Wave 代表）
菊野 麻子（フリーアナウンサー）
長井 亮一（新潟市文化スポーツ部 部長）
- 出席者 アドバイザー : 太下 義之（三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)
芸術・文化政策センター/主席研究員・センター長）
- 出席者 事務局 : 佐々木 克己（教育委員会地域教育推進課 課長）
枝並 素子（教育委員会地域教育推進課 課長補佐）
増田 徹（教育委員会地域教育推進課 副主査）
中野 力（文化スポーツ部文化政策課 課長）
鈴木 稔直（文化スポーツ部文化政策課 課長補佐）
黒川 正憲（文化スポーツ部文化政策課 主査）
諸橋 真樹（建築部公共建築第2課 課長補佐）
宮崎 嘉孝（建築部公共建築第2課 係長）
須貝 允英（建築部公共建築第2課 副主査）
阿部 康道（大畑少年センター 所長）
半藤 千枝子（大畑少年センター 事業担当）
- 出席者 策定支援 : 町田 誠（本間総合建築 取締役）
- 全体進行 : 枝並 素子（教育委員会地域教育推進課 課長補佐）
- 傍聴者 : 2名

◆ 議事内容

1. 事務局挨拶

： 佐々木 克己（教育委員会地域教育推進課 課長）

- ・本日は、基本構想の素案について、また施設のレイアウトについて、ご意見をいただきたい。今までの委員会でも出された願いと熱い思いを点から線へとまとめていき、その素案をもとに市民から理解が得られるようなパブリックコメントを取りたいと考えている。前回に続き忌憚のないご意見をいただきたい。

2. 議事 ※進行は中村委員長

(1) 基本構想（素案）について

《資料》（仮称）国際青少年センター・（仮称）芸術ファクトリー基本構想（素案） 資料1

・資料をを説明

： 枝並 素子（教育委員会地域教育推進課 課長補佐）

《2 背景》に対するご意見

- ・（引用 国立青少年教育振興機構）の引用の範囲を教えて欲しい。（長浜委員）
 - “急激な勢いで.. から（引用 国立青少年教育振興機構 H22.3）”までを長文であったので若干かいつまんで引用している。
（枝並 地域教育推進課長補佐）
 - 少子高齢化という問題が、青少年の非行や不登校などの問題を深刻化させているとか、あるいは若者の社会的自立の遅れを生じさせているかということ、素直につながらない印象を受ける。引用を端折ったということであれば、もとの文章をもう少し精査し修正する必要があるのではないか。
“これらの諸問題のうち.. ”という文章もこれらの諸問題が何をさしているのかがわからない。また、“特に強く指摘されている”というのがつながりにくい。その次に新潟市の状況がつながっていくが、素直に流れず、頭に入らない。（長浜委員）
 - 中央教育審議会や生涯学習審議会の方が引用先より大きな機関であるので、本来はそこから引用すべきではないか。（中村委員）
 - ご指摘のとおり。事務局にて大もとの文章からの引用を検討します。
（枝並 地域教育推進課長補佐）

《3 基本理念》に対するご意見

- ・一番下のト書きに書かれている“青少年健全育成と..”の文章が一番重要な集約した文章となっており、その中で「心豊かな子どもの育成」は分かりやすいが、「心豊かな生活の実現」が施設が目指すものとして大きすぎて一施設で可能なのか。もう少しこの施設に基づいた内容にすべきではないか。

「育成」と言った場合は施設が主語になると思うが、「心豊かな生活の実現」と言った場合には、市民が主語になると思う。（中村委員）

- ・《5 施設機能》の中の（4）創作活動機能は、市民の「心豊かな生活」と、どのようにつながるのか。（齊藤委員）

→ 「心豊かな生活」というのは、文化創造都市ビジョンの目指すところである。委員長がおっしゃるとおり、その施設自体として考え検討する。
（鈴木 文化政策課長補佐）

- ・第一段落が青少年センター、第二段落が文化芸術というふうに捉えられると思う。第三段落において、新潟市がこの施設をともに育てていく文言を入れられないか。大畑少年センターが単なる教育委員会の施設、または行政の施設であって、浮いているような見方をしたくない。様々な文化活動や青少年活動も市民の支えと融合で新しいものが生まれるのではないか。水士や十日町の例でも自分たちが主体ではないが市民が支えている。市民を含めた「総掛かり」というイメージの言葉が欲しい。

（福島委員）

→ 基本理念を説明する文章が必要ではないか。（中村委員）

- ・地域が重要である。この場所が信濃川と阿賀野川によって堰き止められて、潟ができたという固有な歴史があり、そこで人々の行いや暮らしが生まれてきた。この文章自体は起承転結、良くまとまっているが、新潟市でなく他の市であっても同じキーワードが出てきてもおかしくない。新潟市から生まれた文化が重要だと考えれば、旧二葉中学校が、あの土地に建っている歴史的背景や意味を文章化されたほうが、より新潟らしくなるだろう。それを市民が作っていくのだという内容の理念につながっていくのが重要。（丹治委員）

→ いままでの検討の中でも、文化はどうあるべきか議論されてきたが、そのような内容を含めた文章にする方が良いのではないか。（中村委員）

→ ご意見を参考に検討し、盛り込んでいきたい。

（枝並地域教育推進課長補佐）

→ 地域性や文化についての前提のもとに、市民の支えによってこの施設が利用できるような考えを盛り込むと良いのではないか、というご指摘でしょうか。（佐々木 地域教育推進課長）

→ 福島委員の意見は、そのとおりであると思う。丹治委員は新潟市の文化の特色、例えば古町とか、新潟の自然の良さなど、そのような中身的な部分と支えられている部分をお二人からご意見を頂いた。（中村委員）

・基本理念がどこまで重要かは分からないが、この文章のうち新潟市という文字を隠しても新潟だとわかる理念にすべき。（逸見委員）

→ 各個別の委員会の中でも、新潟文化の良さの意見は沢山出ていた。理念と新潟市の持つルーツを兼ね合わせていただくと良いのではないかと。（中村委員）

→ 理念と機能や役割、具体的なソフトをセットにして考えていかなければならないが、どこまで実現可能なものなのか見通しがないなかで、詳しい事が描ききれないのが実情。（佐々木 地域教育推進課長）

→ 委員からは新潟市の良さについて、多くの意見が出されていたので、可能な限り、盛り込んでいただきたい。（中村委員）

・“文化芸術は「心豊かな生活」を実現するうえで不可欠なもの”と言い切っているが、文化芸術が、いかに子どもたちの成長に大事なものなのか、冒頭からの文章を拝見していても分かりにくく、国際青少年センター機能については市民の理解が得られると思うが、芸術創造ファクトリー機能部分に関しては、なぜ不可欠なのかを分かりやすく市民に伝えないと理解が得られないのではないかと。

私も芸術は非常に重要な事と考えているが、新潟に住んでいるからこそ郷土愛が感じられたり、色彩感覚にしても新潟市に住んでいるから感じられるものなど、芸術を通じて得られる新潟の良さ、多様な視点、感性の深まりなど、そのような表現をこのビジョンに盛り込まないと難しいだろう。（菊野委員）

→ そのギャップを埋めるものはなにか。感性であるとか郷土愛とかが色々な視点で表現すべきではないか。（中村委員）

→ そのような内容については、“2背景の（2）文化芸術が有する創造性を活かしたまちづくり”で記載している。（中野文化政策課長）

→ “文化芸術が有する創造性”という言葉が多用されているが、市民には分かりづらく理解が得られないのではないかと。個人的には、文章を読んで“創造性”が大事だと感じられない。（菊野委員）

→ 基本理念の中にも、説明ではないが市民にわかりやすい言葉を入れたほうが良い。（中野文化政策課長）

→ 創造性という言葉でまとめてしまうのではなく、感性とか新潟の良さを言葉として入れたほうが良いのではないかと。ビジョンの部分に比べ、文章の下の部分は希薄でアンバランスな印象を受ける。（中村委員）

→ “文化芸術は「心豊かな生活」を実現するうえで不可欠なもの”のところで心豊かな生活を実現するうえで文化芸術が不可欠と言われると疑問が残る。（菊野委員）

《全体的なつくり》のご意見

- ・最初にいがた未来ビジョンがあり、ファシリティマネジメントの考え方あって、このような施設をつくりますとあり、時系列にはその通りだと思うが、どこにも冒頭に掲げられているファシリティマネジメントの内容がかかれていない。
にいがた未来ビジョンの子どもの政策、文化の政策があって、その結果、このようなものをつくっていきたい、その実現には新しいものでつくるのか、ファシリティマネジメントの考え方を取り入れて旧二葉中を利用してつくるのかという流れが全体的なつくりとしての私の考え方である。
重要な部分の視点の順番が逆転しているような印象を受ける。（長井委員）
 - トップダウン的に書かれており、その逆が良いということか。（中村委員）
 - 今回、国際青少年センター、芸術創造ファクトリーというものをつくるのだが、なぜつくるのか後からきており、一番最初にファシリティマネジメントがあり、旧二葉中を利活用したいから、この施設をつくる印象を受ける文章になっている。その為、必然性が感じられない。（長井委員）
 - 全体の中で新潟市では、こういう方針で、その中で位置づけられていますという内容になっていると思う。（中村委員）
 - 同様な印象を受けました。青少年センターがあり、子どもを育成させる芸術が必要なので芸術創造ファクトリーと一緒にしたという流れが感じられる。逆に芸術創造ファクトリーからは、芸術の部分で受け入れて子どもが刺激を受けるといったような利点がこの方針から見えてこない。（池主委員）
- ・初期の頃に議論された、創造ファクトリーの目指すもの、例えば無名のアーティストを育てる、また子どもとの接点を持つような内容が無くなっていないか。
（長浜委員）
 - 分かりやすく書くということは大事だと思うが、時系列で上からのトップダウン的に決まって書かれている利活用という話は、行政的には良くわかるが、事務的な無味乾燥な印象を受け理念が伝わりにくい。（中村委員）
- ・背景やはじめの部分をもう少し整理、手直しが必要ではないか。創造ファクトリーが目指す一番大事なところはどこなのかを明確にすべき。（長浜委員）
- ・芸術ファクトリー部分が希薄になっている印象。どこまで書き込めるかで伝わり方が変わるだろう。（中村委員）
- ・運営に関してですが、ディレクターが中心になって、どのような施設運営をしていくかを書き込む事によって方向性を決めてしまうので、どこまで書き込むべきかと思う。（長井委員）

→ 具体的に書く事によって、方向性を制約してしまうので広がりを持たせるべき。菊野委員のおっしゃっている、目指そうとしていること、どのような力をつけようとしているのかを取り入れる文言であれば、縛りははないのではないか。（中村委員）

- ・ 従来ある文化芸術ではなく、新しいものを皆で議論した。現代という言葉のもつ意味を皆さんで考えてきた。第二段落の部分に ”その時代に応じて新しいものを取り入れ” とあり、この部分を磨きあげていくことに現代性があると思うので、ここを掘り下げてはどうか。（福島委員）

→ 芸術のもつ力のようなものを記載してはどうか。（中村委員）

- ・ 長井委員の発言のとおり、ここで方向性を決める文言を入れると縛りが多くなると思う。そうではなく地域性であったり市民力を全面に出すことにより、それをベースとして、作家なりアーティストなり、あらゆる人たちが共に作り上げるという方向性が良い。例えば若い作家、行政としても、そのコンパスの針が「新潟市」もしくは「市民」というキーワードをもとにつくる、そこから何か生まれるというベースを最小限つくらないとオリジナリティが生まれない。そのような事を編集するのがディレクターの役目。（丹治委員）

→ 新潟市の地域性や市民、個性など、内容を加えていきたい。
（中野 文化政策課長）

- ・ 市民の理解を得るために、このような長い文章で説明する必要があるのか。短いコピーのようなものにならないか。（逸見委員）

→ 短いものでも市民の理解が得られればそれでよいと思う。
（中野 文化政策課長）

→ 来年、東京の渋谷区で「渋谷のラジオ」、が開局するという報道があった。そのキャッチコピーは「ダイバーシティ、シブヤシティ」、で渋谷の多様性に注目し、渋谷を愛し、盛り上げていこうという理念を掲げてスタートしている。このコピーが全てを含んでいる。

このラジオ局の代表が箭内（やない）氏、でタワーレコードの「NO MUSIC NO LIFE.」作った方。漠然とした簡単なコピーが分かりやすい。

今回の施設では、理念をしっかりと書き、説明する必要があるのか。

（逸見委員）

→ 量より質であるので短くても良いのではないか。（中村委員）

→ 太枠部分の理念だけでは市民の理解が得ることは難しく、説明が必要と判断している。（中野 文化政策課長）

《4 施設の役割 5 施設機能》に対するご意見

《資料》旧二葉中学校校舎利活用基本構想レイアウト図 資料2

- ・「複合機能含む」と「複合機能」の表現が分かりにくのではないか。(中村委員)
 - 資料2のレイアウト図を見て頂きたい。
黄色部分が複合機能となっており、青少年と芸術がどちらも使える場所として設定している。(1) 宿泊・研修機能を例にとると、宿泊施設の他に1階のカフェ・食堂も含まれることから、複合機能の中にも宿泊・研修機能があるという場合に「複合機能含む」と表記している。
(3) 国際交流機能が「複合機能」と表記しているのは、和室やワークショップ室を考慮しており、単体の水色の部分は国際交流機能はないということで「複合機能」だけの表現になっている。
(枝並 地域教育推進課長補佐)
- ・4 施設の役割の順番ですが(2) 国際青少年センターは～ → (3) 芸術創造ファクトリーは～ → (1) の順番の方が分かりやすいのではないか。(長井委員)
 - そのように修正する。(中野 文化政策課長)

《6 施設内容 施設整備計画案》に対するご意見

《資料》旧二葉中学校校舎利活用基本構想レイアウト図 資料2

- ・レイアウト図の説明。
前回の委員会において意見として出されていた、子どもたちの危機安全管理と利用のし易さという観点から、1・2階に複合機能と芸術創造ファクトリー機能を、3・4階に宿泊施設のある国際青少年センター機能を設けた案として、レイアウトの変更を行った。(枝並 地域教育推進課長補佐)
- ・昼の部屋の使い勝手が良いため、談話室、和室の提案が良い。
大畑少年センターのカーペット敷の部屋の利用が多く、様々な方が利用できる。
(福島委員)
- ・場所よりの記載内容に差があるので整理が必要。例えば、宿泊室に洗面化粧台が設置されている、夕日が眺望できるなど、構想段階では記載しなくても良いのではないか。(長浜委員)
- ・音楽室(体験活動支援機能) 「演奏などの支援」程度で良いのでは。記載しすぎると文句を言う人が増えるのではないか。最小限の記載の方が利用の自由度が高い。
(逸見委員)
 - コミュニティスペースと多目的室の違いなど、必要最小限説明が必要と考えます。(佐々木 地域教育推進課長)

- 基本構想ですので詳細まで記載しない方が、意見を誘導しないパブリックコメントを得ることができると考えます。それぞれの部屋の内容も表現を揃えるようにする。(鈴木 文化政策課長補佐)
- 体育館の部分では体験活動機能の記載はあるが、創造活動機能部分の記載がないので、機能のレベルで表現を揃えてはどうか。(中村委員)

・避難所の記載は委員会で決定できることではないので、取った方がいいのではないかと。書くのであれば、ありきではなく可能性の表現が良いと思う。(長浜委員)

・(3)「国際交流機能」という言葉もあり(6)交流機能の「交流機能」が分りにくい。(長浜委員)

・市民がこの建物にどのように関わるのか。

要素として宿泊する子どもたち、アーティスト、それを支援する方の顔は見えるが、市民が関わる場所、時間のイメージがわかりにくい。市民が関わり、間口を広くするイメージが伝わる文言が必要ではないか。

耐震的には問題がない建物だと思うので、大きな災害が発生した時に限り、避難所として開放するのであれば記載は悪くないと思う。(丹治委員)

→ 記載するのであれば、責任が持てるのかという議論が必要。そのような意味で記載しない方がよいと考えている。(長浜委員)

→ ワークショップを開催する時には、市民の方が交流できる。

(中野 文化政策課長)

→ 避難所の記載は検討する。(枝並 地域教育推進課長補佐)

・全ての宿泊室は8人の2段ベッドだが、用途やお客さまによって宿泊のタイプが選べるのがよいのではないかと。海外からの宿泊者は和室を選ぶかもしれない。(齊藤委員)

・日本古来の和室の利用の仕方、その文化がなくなりつつある。

ベッドだとそれ以外の利用ができない、一部(音楽室前、調理室前)を和室に変えるのは賛成である。(福島委員)

→ 一和室で布団を敷きつめれば、6名は泊まれると思う。

(町田 本間総合建築)

→ アグリパークでは、収容人員が90名を切っており、一学年を収容するには規模が小さいとのご意見をいただいている。大規模校は難しいが、7~8割程度の学校の一学年が泊まることを網羅する場合、120名程度(2つの学校の一学年を想定)の収容人員が必要である。

収容人員が減ると一学年が宿泊できない、もしくは一つの学校しか泊まれない可能性もあり、設計者と相談して基本計画に反映させたい。

(枝並 地域教育推進課長補佐)

- アグリパークも見学した際、収容人員を増やさなければ泊まれないとの意見もいただいた。大人数を収容するには、この程度必要と考える。畳の良さ、布団の良さも認識しており、談話室を和室にしている。本施設はホテルと違い自分達で床の始末、片付けを行う。アグリパークは掃除の方が入り点検を行うが、その人員を本施設で確保できるかも検討材料の一つであり、その選択の中で今回の提案となっている。（佐々木 地域教育推進課長）
- ・施設内容のなかに障がいのある方も利用できるような、ユニバーサルデザインガイドラインに伴う部屋のデザインが必要。（丹治委員）
- ・屋外部分に炊事所と避難所とあるが、ご飯を食べた後に思い出に残るようなイベントがあると良いのではないか。例えば校舎の壁面アート等、印象に残るものも必要であれば記載してはどうか。（逸見委員）
 - 現在は検討していない。あえてここには書かなくても、実際、投射などの利用は可能だと思う。（中野 文化政策課長）
 - ラ・フォル・ジュルネで壁面に投影したようなものか。（福島委員）
 - プロジェクション・マッピングは素晴らしいが費用がかかりすぎる。青少年がスマートフォン持つのが当たり前になっているなかで、例えば、将来の夢を打ち込むと全員の夢が校舎の壁面に投影されるなどが、考えらえる。（逸見委員）
 - 現実にはガラス面の一部を壁にする必要があるのではないか。（長浜委員）
 - その心配はない。（逸見委員）
 - その場合はソフトだけの問題だと思う。（長浜委員）

(2) 施設レイアウト（案）について

《資料》旧二葉中学校校舎利活用基本構想レイアウト図 資料2

： 枝並 素子 （教育委員会地域教育推進課 課長補佐）

- ・国際交流の部分でのアイデアが不足している。皆様のアイデアを頂きたい。（枝並 地域教育推進課長補佐）
- ・現在の大畑少年センターとして使い方として、教育委員会の行っている姉妹都市の子どもたちとの交流事業が、新しい施設の交流の場になると思う。その他に今年は、東アジア文化都市として、新潟市、青島、清州と交流しているが、来年以降も続くのであれば、新しい青少年センターを活用したいと思っている。また、学校間の交流以外にも、数は少ないかもしれないが、海外のサークル、例えばサッカーや囲碁をしている海外の子どもたちと観光を兼ねていると思うが、一定のルールのもと、新潟の子どもたちの交流を兼ねて宿泊できるのではないか。（近藤委員）

- ・海外からの交流は他の政令指定都市に比べると多くはなく、新潟市では4800名程度。しかし色々な国が来ているので、遊びであるとか水墨画とか、新潟市内に住んでいる外国籍の方を講師にむかえて、この場で教えていただけると良いと思う。
さらに、市内の高校にいる外国籍の留学生との学校を超えた交流。例えば夏休みとかに市内の高校生と国際交流の促進ができると良いと考える。また留学生が講師となって、国際理解を促進するような事業があればなお良い。
新潟市の学生も多文化を理解することになるし、留学生にとっても、新潟での社会参加に寄与するのではないか。（近藤委員）

- ・あらゆる料理の分野で、世界で賞を取っているような方が新潟にもいるので講師として招き、お話を聞いたり実際に調理を行うことなどの交流をはかることで、子どもたちの将来やりたいことが広がっていくのではないか。（近藤委員）
 - 利用者の対象をどこまでにするか。
来館した外国の方に新潟の文化をどう伝え、楽しんで頂くかという視点と、外国の方から新潟市民に他国の文化をどのように伝えて頂くかという両方の視点がある。（中村委員）

- ・学校支援課で国際交流事業を行っており、外国への派遣と受け入れを行っている。もし、この場所が使用できるのであれば、受け入れた時に宿泊だけでなく、海外ではホストファミリーが文化を紹介したり皆で活動することが一般的であるので、そのような会場としても利用できるのではないか。さらに、派遣に行く子どもたちもここで研修が受けられるのではないか。
また、イングリッシュセミナーをALTと中学生対象に行っているが、本施設には様々な部屋が用意されているので、外国籍の方から料理や言葉を習うことや、体育館もあるのでスポーツを体験したり、日本からは書道、茶道などの文化を伝えることができる。（齊藤委員）

- ・カフェ食堂のスタッフを外国籍の方にするなど考えらえる。（逸見委員）
 - ソフトを考えるうえで参考になった。例えば日本の文化を伝えるあたりで、地域の方々にお茶を教えるということも可能なのではないかと思います。（枝並 地域教育推進課長補佐）

(1) 基本構想（素案）について

《7 運営手法 8 整備スケジュール》に対するご意見

- ・整備手法と運営手法を分ける必要はないのではないか。
ディレクターの選任についても、ここまで断定してよいのか。
指定管理者についても流動的なので、変更可能な表現がよいのではないか。
（長浜委員）

- 指定管理も含めて担っていただける業者を選定することにとどめる。
館長がディレクターを兼ねれば良いという意見もありましたが、
このような表現にとどめておきたい。
最終的にはトータルコーディネートできる人を配置したいと考えている。
(鈴木 文化政策課長補佐)
- ディレクターを最初に選任して、その後に指定管理を決めるという順番に
決まったのか。(中村委員)
- 基本計画の段階では、そのステップを提示したい。
(鈴木 文化政策課長補佐)

- ・整備手法と運営手法を分けなくとも良いのではないか。
大前提としては指定管理、運営や施設整備においてはディレクターの選任し、意見を
求めるなどについては今後検討する、という書き方もあるのではないか。
(長井委員)

- 表現に関しては、パブリックコメント前に精査させていただく。
(鈴木 文化政策課長補佐)

- ・ここにアーティストが泊まらないのであれば、レジデンスという言葉を使わない方が
わかりやすい。
- ・浴室、脱衣所は国際青少年センター機能となっており、宿泊者専用とあるので、
クリエイターは使えない前提になっている。例えば体育館でレクリエーションがあっ
た場合、使えた方が良いと考えますので、ご議論願いたい。
- ・水土アーカイブとギャラリーは本来別のもの、アーカイブとは図書館で言えば閲覧室
ではなく書庫、美術館で言えばギャラリーではなく収蔵庫、劇場で言えば舞台では
なく練習場にあたるもの、これは本来きちんとあるべき。ギャラリーはあっても良い
がアーカイブは付帯的な機能である。
- ・コミュニティスペースに“芸術作品を展示するギャラリーと一体の憩いの場とする”
とあり、これが新潟を代表する機能と思うので記載してあって良い。
- ・体育館の部分は複合機能で広いスペースがありますので、遮光や遮音の機能があつた
ほうがよい。またデモンストレーション行為もできる施設にする配慮が必要と思う。
- ・サインについて、本来は他言語ということになるが、クリエイティブな場所だとい
うことを考慮すれば、ピクトグラムなどを活用して様々な言語の方にもわかるよう
なサインを設置することも、あらかじめ盛り込んではどうか。(太下アドバイザー)
- ・”レジデンシャル(滞在型創作活動)を可能とする”とあるが、どこか宿泊ができる
場所を考えてるのか。仮に宿泊室が空いている場合には利用できるのか。
(丹治委員)

- 青少年部門と分けることを基本として、作家の宿泊を認めない方針とした。
(中野 文化政策課長)

- 搬出入口を24時間出入り可能とし、安心安全ということから分けることに
するという考え方だと思う。(長浜委員)
- 宿泊室が満室の場合は仕方がないが、空室の場合には利用できるように
して欲しい。空室時に利用することに不利益があるのか。(丹治委員)
- 宿泊可能な条件設定が不確定であるので、原則としては、使用できないと
すべきだと思う。(長浜委員)
- 水土の期間のみということであれば可能と思うが、空いている時に無制限に
生活される方がリスクを伴うではないか。そのリスク管理がどこまでできる
かが課題。長期滞在が問題であるので、短期であれば作家活動としては大事
だろう。(中村委員)
- ギャラリーの隣にある休憩室で仮眠は可能。住むという場合には、建物の
外でお願いしたい。(中野 文化政策課長)
- アーティストは時間厳守など、守ってもらえるのか(長井委員)
- 海外から来て長期滞在して制作する事のメリットは大きい。市内のホテルに
泊まるということになれば、交通の事も考慮しなければならない。空いてい
る時にはルールは守っての利用可能で良いのではないか。(丹治委員)
- 海外のアーティストは招聘するのが基本でしょう。この施設で子どもたちに
色々教えてあげてください、但し宿泊は街中でというのはいかがでしょうか。
他の国のアーティストを招聘するのであれば、宿泊も整える必要があるだろ
う。(逸見委員)
- 基本的に招聘するのであれば、その内容によって、ここに宿泊するのか、
ホテルが良いのかとなると思うが、この一般的な利用はそのような
イメージではないのではないか。住まいはご自身でというのが基本。
ここでは、100%ではないが、基本的な考え方としては分けるべきだと思
う。(長浜委員)
- 青少年センター機能側では安心安全が優先され、芸術創造ファクトリー側
では作家の自由な創作の場の提供というのがあると思うので、この施設だけ
でなく、他の施設も組合せながら検討する必要があると思う。(中村委員)
- 事務局としても悩んでいるところである。当日どうしても泊まりたいという
アーティストには休憩室を利用。長期宿泊に関しては検討させて欲しい。
(中野 文化政策課長)

3. 連絡

第5回委員会の日程については2月上旬を検討している。日程調整表を年明けに発送する。

以上